

2010年11月13日 講義3

講義タイトル：UNICEF ナミビア ICT and HIV/AIDS Prevention

講師：Ms. OHARA Kanako

キーワード：ICT, HIV/AIDS, 携帯電話, ユニセフ, OVC

要約

ナミビアは人口210万人、内18歳未満は人口の43%、5歳未満は13%を占める。若者の失業率は高く、15-19歳で40%、20-24歳は47%にもなる。平均寿命は男性48歳、女性50歳であるが、これはエイズのせいでは下がっているという。妊娠女性のHIV感染率は17.8%にも上り、世界でもかなり高い数値を示している。その上、15-19歳の感染率が5.1%、20-24歳の感染率が14%という高い数字となっているが、新しい感染率の半数以上が25歳以下であるという。OVCとは、Orphans and Vulnerable Childrenの略であり、「エイズ遺児とHIV/AIDSのために弱い立場に置かれた子どもたち」のことであるが、現在推定250,000人のOVCがナミビアには存在すると推定されている。また、内155,000人は孤児と推定されるが、このとき、孤児だから脆弱とはいえない、もしくは孤児でなくても脆弱な子どもはいるなどという、誰が孤児で誰が脆弱なのかの判断は、ひどく難しいものだと言及されていた。

ユニセフナミビアは4つの柱、Education for HIV Prevention and Mitigation(EHPM)、Special Protection of Vulnerable Children(SPVC)、Maternal and Child Survival Development(MCSD)、Cross-sectoral Programmeに分かれて活動し、エイズ予防やヘルス、チャイルドプロテクションなどに取り組んでいる。この内、大原さんはEHPMに所属されている。

ここで、ナミビアのエイズに関する問題点について述べる。ナミビアでは、エイズの予防についての知識はあるにも関わらず、若者の感染率が大幅に減らない。そのひとつにMultiple Concurrent Partnership(MCP)という、同時に何人ものパートナーのいることが社会的に受け入れられてしまっている状況がある。また学校やテレビといった日常生活のあらゆるところでのエイズ教育が、"AIDS Fatigue"として子どもたちにのしかかり、受け流され、更には女性の社会的地位の低さも相まって、最終的にはコンドームを使用しないといった問題点もある。

このような問題に対して、ICTの活用を進めている。ICTとは、Information and Communication Technologyの略であるが、具体的には携帯電話を利用したエイズに関するクイズキャンペーンや、SMSやインターネット、ウェブサイト、ソーシャルネットワーキングサイトの活用によるエイズ予防に関しての教育や情報へのアクセス、またInteractive Voice Response System(IVR)を利用したホットラインの設置などを行う。特に利用者が著しく増加している携帯電話の活用を通して、ICTの導入を行っているという。

ナミビアでは2008年現在、16歳以上の40%が携帯電話を利用しており、利用者数は都市・

地方問わず増加している。携帯電話ではプライバシーの確保ができ、時間や場所を問わず利用可能、プリペイドで安いという利点がある。一方で携帯電話によるICTの導入の際に注意すべき点としては、開発分野で携帯電話やICTはまだ殆ど導入されていないということ、電話会社のさまざまな規制があること、NGOなどで活動するIT専門家の少なさ、そして携帯会社の市場独占によるCSRへの取り組みの弱さなどが挙げられる。

2009年11月、ナミビアでは大統領選挙があったが、その2009年10月~11月の5週間、携帯電話や固定電話を利用する若者(12-28歳)を対象にして、Listen Loud Campaignが行われた。これは音声ガイドのコールフリーで行われたが、選挙権のない18歳以下の若者にも社会問題への意見を寄せてもらおう開かれた場として、大統領選挙に向けて政治家に若者の声を届けることを目的に行われた。サミットなどの影響で2010年11月時点では実現されていなかったものの、この世論調査の結果をもとに、2010年こども議会で発表するレポートの作成を行い、新政府に届けることも実施予定とされている。

この世論調査は、結果的に20,000人が参加し、250のSMSを受け取ることになった。5つのテーマ(教育・エイズ・健康・チャイルドプロテクション・将来)について「若者の意見」を収集することができ、新聞とNIDのウェブサイト上で結果が公表され、上記のこども議会へ向けた最終レポートが作成されているところである。

ユニセフナミビアのエイズ予防に向けた2010年の活動としては、SMSを利用した情報システムやクイズといった方法でのヘルス情報の提供、また40セントの有料ではあるが、SMSによるカウンセリングなどがある。その他にも、SMSを利用した感染者治療のフォローアップやモニタリングによるデータ収集が行われている。

(報告者：近藤有希子)